

経営比較分析表（令和6年度決算）

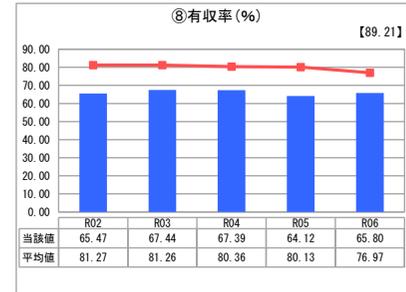
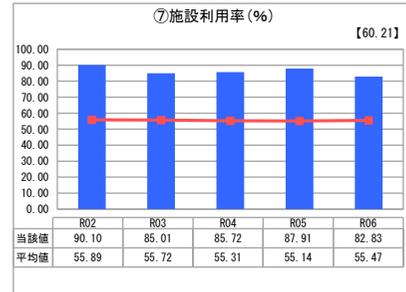
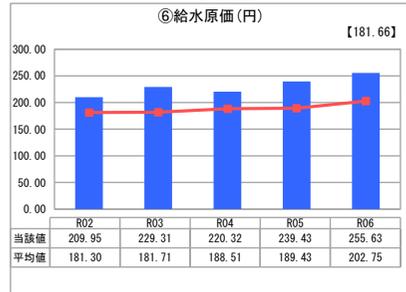
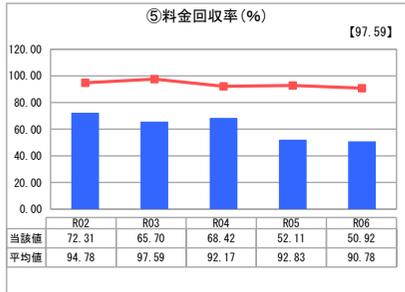
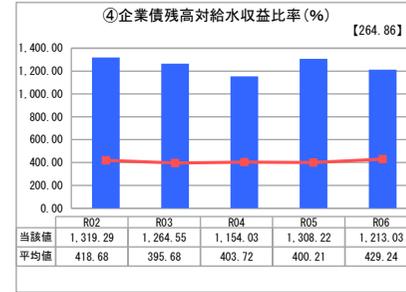
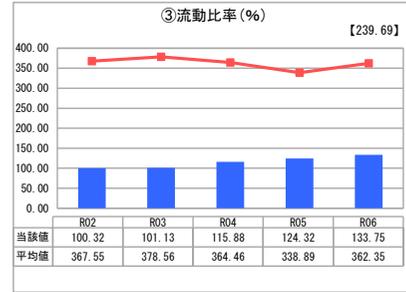
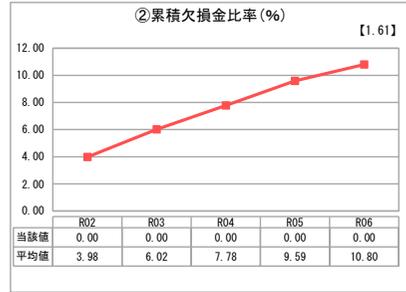
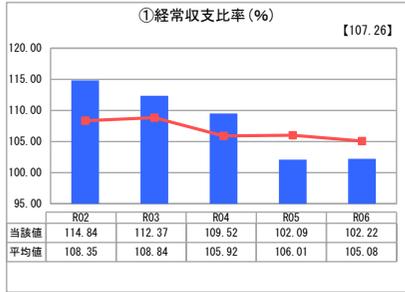
高知県 四万十町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	61.38	99.13	2,915	

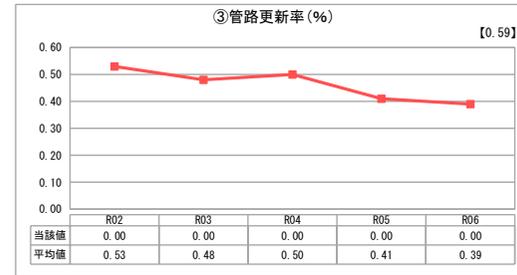
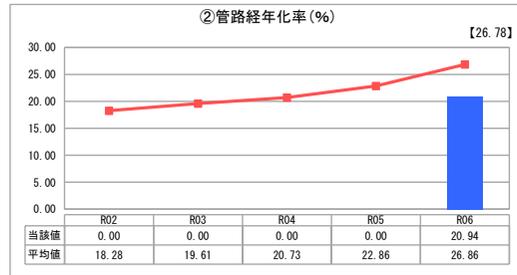
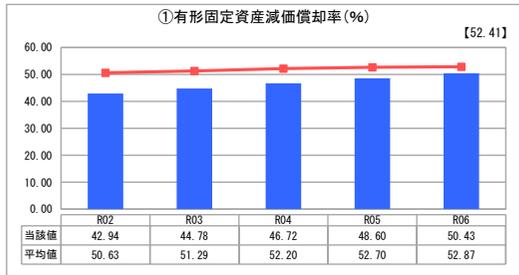
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,945	642.28	23.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,633	110.30	132.67

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の水道事業会計は令和2年度より簡易水道事業を統合し効率的な運営体制の構築に取り組んでいます。

「経常収支比率」においては、単年度の収支が赤字であることを示す100%を超えているものの、給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを示す「料金回収率」では、50.92%と類似団体と比べても低い水準となっています。

令和5年度及び6年度は、国の交付金を活用し基本料金の減免を実施したことにより、それ以前の水準より大きく減少していますが、給水に係る費用を給水収益だけで賄えおらず、一般会計からの補助金に依存している状況となっています。

また、給水収益に対する企業債残高の割合を示す「企業債残高対給水収益比率」では、前年度より減少し、1,213.03%と類似団体と比べても高い水準となっています。本町は3町村の合併による広大な面積を有しており、集落が点在していることに起因するものと考えられます。

そのほか、近年の物価高騰や人件費の上昇に伴い「給水原価」が上昇傾向にある一方で、「有収率」については類似団体と比較しても低い水準で横ばい状態となっています。

今後、施設の更新も実施予定であることから、料金水準の見直しについても検討していく必要があります。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産原価償却率」は、類似団体と比較して少し低い水準となっていますが、近年では管路の老朽化による漏水等が増加している状況となっています。

そのため、アセットマネジメント計画に基づき老朽化対策や耐震化事業を計画的に推進していく必要があります。

全体総括

「経常収支比率」が100%を超えているものの、「料金回収率」が50.92%となっており収支不足について一般会計からの補助金に依存している状況であり、今後は人口減少に伴い給水収益の減少も見込まれる厳しい見通しとなっています。

このような状況のなか、今後も健全な事業運営を継続していくためには更なる経費の削減に加え、適正な水道料金への改定が必要となっています。

そのため、令和7年度改定予定の経営戦略を基に、有収水量の減少や施設・管路の更新を踏まえた料金改定に向け検討を進め、経営基盤の強化に努めていきます。